

雑俳における漢字使用状況

『青木賊』の場合

はじめに

本報告は、既に発表されている山田俊雄氏の一連の御論考⁽¹⁾の驥尾に付すべくまとめたものである。すなわち、『新木賊』『若木賊』『かざし草』など、その漢字の実態について順次公表されているが、この『新木賊』『若木賊』と同一撰者・同一板元の筈附集であり、この二集の初篇にあたる『青木賊』における漢字の用法に関する調査報告である。これら雑俳書は、振り仮名の多用により漢字表記され

る語の読み方がとらえやすく、この時期における漢字の使用状況を⁽²⁾知る上で重要な資料となることは既に述べられている。

今回の報告は漢字の総体を索引をもって示すことに主眼があり、漢字の頻度数別一覧、および、字音のみ、字訓のみのものなどについて整理し示すことは別に譲ることとした。

西 讓 二

一 『青木賊』について

『青木賊』は先述のとおり、『新木賊』『若木賊』など「木賊」と称する笠附集の初篇にあたるもので、外題には⁽⁴⁾「^{新撰}笠附青木賊 全」、題次列に次ぐ本文の冒頭にある内題には「^冠青とくさ」とあるものである。撰者は『新木賊』などと同様、浪花の園田荻風である。刊年については、南芽の「序」に「天明三癸卯／初冬」とあり、また、本文最終丁の百六丁のウラにある刊記に「天明四^{甲辰}歳／初冬開板」とあることから、天明四（一七八四）年ということになる。板元は、同じく刊記によれば、刊年のあとに次のようにある。

心齋橋通南久寶寺町

塩屋平助

撰陽書林

阿波座堀岡寄橋北へ入ル

伏見屋利兵衛

このことから塩屋平助・伏見屋利兵衛の開板にかかることがわかるが、詳しくは後述することとして、初版を天明四年とするならば今回調査対象にした諸本はすべて初版本ではないことになる。良本のゆえに中心に用いたものでさえ天明六年以降の刊と思われる。これら後刷り本では、右に示した刊記の板元は、すべて刊記そのままに残るものの、付録として付けられた出版目録に記される板元は、多少の相違を示している。⁽⁵⁾

さて、この『青木賊』は『新木賊』などと同様に横本仕立で、全体でほぼ八十丁ほどの分量のものであり、題次列・本文ともに一面十行である。全体でほぼ八十丁としたが、その内訳は、序一丁、題次列六丁、本文七十丁で、本文の最終丁は先述のようにオモテまでである。この他に、出版年次により相違が見られるが、巻末などに出版目録を有すること上述のとおりである。また、丁付けについては、他の雑俳書にも見られるとおり、実際の丁数とは異って付けられている。『青木賊』は題次列から本文へかけて通して丁付けがなされているが、五十丁目が八十丁目に相当するという意味で「五十ノ八十」と記されており、三十丁ほど省略したことになっている。

本書は筭附集であるためにその題を題次列として序の次に掲げてあるが、その題次列に示されたものと本文中に示された題とのあいだに些少ではあるが齟齬が見られる。この題次列にはいろは順に二二三項目が載せてあるものの、本文中には二二四項目が配されており、「にこ／＼と」「骨がある」の二項目が題次列に欠けていることになる。⁽⁸⁾また、この題次列と本文中の題とは表記において厳密に統一されているとはいえず、半数ちかくが何らかのかたちで相違を見せている。

二 乱丁の有無と主たる使用テキスト

雑俳書を資料とする場合の注意点として、本文取扱上の問題からも、必ず複数の、できれば三種以上のものを参照することの必要性はすでに指摘されているところである。⁽⁹⁾また、この『青木賊』については、丁付けにおいて乱れのあることが既に述べられており、一層の注意を必要とするのである。

そこで今回の報告にあたっては、八種類についての調査を試みた。その結果、乱丁の有無によって大きく三類に分

けることが可能となった。今回の調査に用いた諸本の紹介をかねて次にこれらを示す(諸本の上に付けた番号は、以下これらの本をさす場合の略号をかねてのものである)。

I 類…乱丁のないもの

① 山田俊雄氏所蔵A本(但、落丁あり)

II 類…乱丁のあるもの

② 山田俊雄氏所蔵B本

③ 東北大学附属図書館狩野文庫所蔵本

④ 京都大学附属図書館所蔵本

⑤ 同志社大学附属図書館所蔵本

⑥ 天理図書館綿屋文庫所蔵本

⑦ 関西大学附属図書館所蔵本

III 類…乱丁のあるもの

⑧ 山田俊雄氏所蔵C本

この『青木賊』の場合の「乱丁」は、丁が前後しているという意味では確かに乱丁ではあるが、実はそれほど簡単なものではないのである。今ここで乱丁のあるものとしてあげたII・III類については、丁付けの上では一応乱れがな

いのである（但、Ⅲ類は二箇所、丁の前後するところがある）。つまり、丁付けの数字の上では、一丁から途中「五十ノ八十」として三十丁省略して百六丁にいたるまで、そこに不都合は見られない。従って、Ⅱ・Ⅲ類ともに丁付けの上では、Ⅲ類の二箇所をのぞき、順序どおりになされているといえるのである。このことは、Ⅱ・Ⅲ類における改編の可能性を暗示するのであるが、ここではその点について深入りすることは控えることにする。

以下、Ⅱ・Ⅲ類を乱丁本とした理由を述べる。今かりに相違のある丁についてⅠ類を基準としてみた場合、Ⅱ・Ⅲ類でⅠ類の丁が何丁として編まれているかを示すと次のようになる。

19	15	11	10	9	8	Ⅰ類 丁
11	36	29	33	20	80	Ⅱ類 丁
11	36	29	32	20	80	Ⅲ類 丁

102	100	95	94	92	82	50 ノ 80	45	36	33	32	29	25	20
82	92			102	100	8	9	10	19		25	45	15
82	92	94	95	102	100	8	9	10	19	33	25	45	15

この対照から、Ⅲ類はⅡ類ときわめて似ており、Ⅱ類とⅢ類の差が実は単に丁が前後しているという二箇所（の乱丁）にあるということがわかる。このことはⅢ類が実はⅡ類と同一の内容をもつものであることを示している。

では、なぜ多数をもってするⅡ・Ⅲ類につかずにⅠ類を

乱れない本としたのかという点であるが、Ⅱ・Ⅲ類を正しいとすると意味が通じなくなる箇所があるという不都合にであうためである。

Ⅱ・Ⅲ類で三十六丁ウとされる部分の最終行には「響られて」という題が掲げられているのであるが、これに続く句が見あたらないのである。この丁に続く三十七丁オの一行目には「ながい事」という題があり、この場所だけ題が二つ連続してしまうことになるという不自然さを示している。しかも丁付けだけは連続しているのである。先に掲げた対照表によると、Ⅱ・Ⅲ類の三十六丁はⅠ類でいう十五丁にあたるところにこなくはならないことになる。そこで、Ⅱ・Ⅲ類での十五・十六丁はどうなっているかという、まず十五丁ウには、

両方に

其心有る茶の取り様

否と言ヲ歟と否といふ

見ぬやふに見る花の寺

だくつく胸へ千秋樂

あぢいな眼付さとり母

犬の長吼能工合
違へて當る趣向なり
水のせき度い吉野川
菊さかさまに文箱出す

とあり、これにつながるⅡ・Ⅲ類での十六丁オは、

はしごを登る柴五郎
笑ふて起る男の子
売に成たるたばこ入レ
とゝ様へ又持て行
きびしい親へ手を合す
ほんにコリヤ
縫ふ手に知れる翌の雪
母のむかしの出る反古
腰の竹馬鈴がない
丁兒のわざにせぬ籠相

である。この十六丁オにある五句は、「両方に」という題につながるすると、ひとつの題に対する句数としてやや

多すぎることになるとともに意味の上でも落ち着きが悪いのであるが、「響^{はび}られて」という題につなげるとき、納得のいく本文としてとらえることが可能になる。これにより、Ⅱ・Ⅲ類にある不都合がⅠ類によれば解消することになり、Ⅰ類の本に乱丁がないとする決め手となるのである。

今回使用の『青木賊』において漢字の用法を調査する場合、付句が一行一句となつてゐるため乱丁によっておこる障害は実際問題としてほとんどないのであるが、資料としてより高い価値を持つと考えられるものを用いるべきことは、この場合も例外ではない。雑俳を資料とする場合に丁付けだけを見て乱れがないとするのはいささか性急であるといえよう。やはり内容を十分に調査した上でないと思わぬところに落し穴が待ち構へてゐることに注意を要するのである。

以上述べてきたことから、Ⅰ類の①本、すなわち山田俊雄氏所蔵A本が、最良のものといえる。この本は出版された年次の上からも最良本であることがいえるのである。表紙見返しおよび巻末に付けられた出版目録により、そこに掲載されている本を手がかりとして出版年次のおおよそが

わかる。これを示せば、

- | | |
|------|---------------|
| ①本 | 天明六（一七八六）年以降 |
| ③⑤⑥本 | 寛政十二（一八〇〇）年以降 |
| ②本 | 文化四（一八〇七）年以降 |
| ⑦⑧本 | 文政二（一八一九）年以降 |
| ④本 | 天保五（一八三四）年以降 |

となる。『青木賊』を天明四（一七八四）年刊とするのであれば、①本がもっともそれに近いことになる。このことは当然刷りの上にもあらわれ、たとえば、

①本		他本	
24 ウ9	間違ふ ^{まちがふ}	24 ウ9	間違ふ ^{まちがふ}
36 ウ7	白鼠 ^{しろねづみ}	36 ウ7	白鼠 ^{しろねづみ}
39 ウ10	後家 ^{ごけ}	39 ウ10	後家 ^{ごけ}
87 ウ10	美男 ^{びなん}	87 ウ10	美男 ^{びなん}

とあるなど濁点の面からいえる。従つて、今回の調査においては、山田俊雄氏所蔵A本を

主たるテキストとして用いたのであるが、この本には題次列の四丁目および本文の四十六・四十七丁の都合三枚が欠落しているという欠点がある。この点については、適宜Ⅱ類の本により補うという方針で調査を行なった。^(U)つまり、最良本をベースに他本により補った内容を対象にしているということである。

三 本文における疑問箇所

今回調査した諸本のいずれにも共通しているもので、何らかの錯誤がそこに見られると考えられる本文部分について、そのすべてを掲げると、

(べったりと)	錢 ^{ぜに} だけ磨 ^は て居 ^い る局 ^{つぼね}	16ウ6
(ながい事)	ぼんの代 ^よ を待 ^{まつ} 乳母 ^{ちち} が夫 ^{つま}	37オ2
(名をつけて)	親 ^{おや} にかくして居 ^ゐ る種 ^{しゅ} 物 ^{ぶつ}	37オ8
(のけておく)	睦 ^{りく} でやられぬ居 ^す 工鏡 ^{かぐみ}	43オ1
(行 ^{ゆき} とどく)	筑波 ^{つくは} 根落 ^ね て來 ^き た女 ^め 夫 ^ふ	94オ4
(砂ほこり)	大入 ^{ある} の有 ^あ ル下 ^{かした} タ ^タ 棧 ^{さじき} 敷 ^敷	101ウ4

となる。傍線部の漢字もしくはそこに付けられた振り仮名に不自然さが見られるのである。「譽」を「ほれる」とするのは、句意からすれば通じないこともないようであるが、やはり「ほめる」とあるべきところと思われる。「代」については、「夜」とすべきところの誤りかと考えられる。「種物」の「種」は「腫」とありたいところであるが、文字の篇は明確に「禾」のくずしである。おそらくは「月」のくずしとの類似から生じたものかと予測しうる。「睦」は、その意および振り仮名からすれば「陸」となるべきところである。「筑波根」を「つくほね」としたこの例は、「つくばね」とあるべきものと思われるが、「は」の仮名に濁点を付けた「え」が、「ほ」の仮名としての「平」と見誤まられた可能性の高いものといえよう。「下タ」は、他所の例からも「した」とあるべきところであり、続き具合からも「した」でなくては不都合となるものである。

これらは、一応、このままのかたちで処理を行なった。索引においては「ママ」の注記を添えて示した。

尚、仮名とすべきか漢字としてとらえるべきか判然としない例が存する。すなわち、

という句での、この「観世流」の「世」を漢字に濁点の付けられたものとするかどうかという点である。漢字に濁点を付ける例はそれほど不思議なものではないが、そう考えるならばこの『青木賊』においては孤例となる。しかし、次に示す例が仮名としてしかとらえられないということから、この「世」を本報告では仮名として扱った。

(のぼりけり) 昼を反古にした世利婦 43ウ5

この「世利婦」における「世」は明確に楷書体での表記である。この例を仮名として扱った、その統一において、「観世流」も「観ぜ流」として処理を行なった。

四 使用漢字数

『青木賊』で調査対象とした部分に用いられている字種は一一一一一文字で、『新木賊』の一二二五字、『かざし草』の一二二二字⁽¹²⁾に対して約百字ほど少ない。このことは、この

資料における総漢字数にもあらわれ、『新木賊』の五七三七字に対して五一二〇字となっている点からも理解できよう。これら総漢字数のうち、振り仮名を持つもの四〇〇九字、振り仮名のないもの一一一一一文字であり、全体における割合では、前者は約七八%、後者が約二二%となり、二割強の漢字には振り仮名がないことになる。これは『新木賊』の二一%にごく近い数値である。また、『新木賊』『かざし草』との比較から、本資料にのみ現われる漢字数は一四六字である。

説明が先後してしまったが、今回の調査の対象範囲は、序および題次列に掲げられている題などをのぞいた、本文中に見られる題二二四項目と一一六五句の付句である。手順としては、まず文節索引を作成し、その後で漢字索引を作るという方針で行なった。漢字の字体は特殊なもの数例をのぞき、便宜上現在通行のものに従った。

また、漢字索引については、その見出し漢字の掲出法・掲出順および用例の示し方など、すべて、『新木賊』『かざし草』との対照の便を考慮し、山田氏のものに準ずることとしたが、多少の相違についてはお許しを願う次第であ

る。

注

- (1) 「雑俳書の表記を資料として考へられることの一例」(『国語学』第一二三集)

「近世の常用漢字について」(『言語生活』三七八号)

「近世常用の漢字——雑俳『新木賊』の用字について——」

『成城文藝』第一〇五号)

「近世常用の漢字——『冠附かざし草』の用字——」(『成城国文学論集』第十六輯)

- (2) 注(1) 参照。

- (3) 注(1) 参照。

- (4) 東北大学附属図書館狩野文庫所蔵本・関西大学附属図書館所蔵本・京都大学附属図書館所蔵本による。

- (5) 山田俊雄氏所蔵A本では「板元／大坂心斎橋筋南久寶寺町／塩屋平助」で、これは、同B本・同C本・東北大学附属図書館狩野文庫所蔵本・同志社大学附属図書館所蔵本に共通する。これに加えて、目録の別丁に、山田俊雄氏所蔵B本では「大坂書林／心斎橋南久寶寺町／高橋平助」とあり、同C本では「板元／南久寶寺町心さいはし／塩屋平助」とある。一方、京都大学附属図書館所蔵本では、巻末

目録に「大坂書林／心斎橋本町南江入／播磨屋喜助板」とあり、表紙見返に付せられた『算法早まなび』の宣伝には「弘化四未春／浪花書林／心斎橋南久太郎町／河内屋政七／同本町南入／播磨屋喜助／梓」とある。関西大学附属図書館所蔵本では三箇所に見え、巻末目録部分に「文化十四丁 丑年正月／大阪心斎橋筋南久寶寺町／浪花書林高橋平助梓」と「文政二 卯年七月／大阪心斎橋南久寶寺町／浪花書林高橋平助梓」とあり、表紙見返しの「口上」と称する部分には「冠附いろ分／繪いり板元／大坂心斎橋通／しほ屋平助」とある。天理図書館綿屋文庫所蔵本では「心斎橋筋南久寶寺町／大阪書林塩屋平助板」とある。ちなみに、井上和雄氏編『慶長以来書賈集覧』(昭和五三年復刻版)によれば、「塩屋平助」は「高橋氏」とあり、高橋平助と同一人物であることがわかる。

- (6) 各本とも形状はほぼ同じであるが、目録の多寡により総丁数は相違をみせる。山田俊雄氏所蔵A本は、序一丁、題次列五丁(一丁欠落)、本文六十八丁(二丁欠落。本文は最終丁のオモテまでで他本も同じ)、目録一丁の総丁数七十五丁。その他の本においては、序一丁、題次列六丁、本文七十丁は共通するが、目録の相違がある。すなわち、山田俊雄氏所蔵B本は三丁、同C本は三丁(うち一丁は二分され、表紙見返しと後表紙に貼付されている)。京都大学

附属図書館所蔵本は半丁ずつ、やはり前後表紙に貼付されている。関西大学附属図書館所蔵本は三丁（後表紙に半丁貼付、前表紙見返しに半丁分の口上）。天理図書館綿屋文庫所蔵本は、半丁が後表紙に貼付されているのみ。東北大学附属図書館狩野文庫所蔵本、同志社大学附属図書館所蔵本はともに一丁である。

(7) 注(6) 参照。

(8) 徳川文藝類聚一一に翻刻された『青木賊』では、この二項目を題次列の最末尾に付け加えている。おそらくは本文との対照の結果からかと考えられる。この翻刻では、乱丁本に基づき行なわれたためか、本文中でつじつまのあわなくなる題の「譽られて」の一行を削っている。また、「(はづかしい)紙に音あり新枕」(12才10)「(べったりと)男根で持たる濱の蔵」(16ウ5)の二句をばれ句との判断からか削除している。この他にも、配列順および表記での不正確さのめだつ翻刻である。

(9) 山田俊雄氏「近世常用の漢字——雑俳『新木賊』の用字について」『成城文藝』第一〇五号

(10) 岩波書店『日本古典文学大辞典』第一巻（一九八三年）の「青木賊」の項の解説（富田正信氏執筆）及び注（9）に示した山田氏の御論考。

(11) たとえば、四十七丁オ九行目にある「(やすい事)堺の町の五間口」の「堺」には、②本では「さかい」の振り仮名の「い」の右側の画のみが残った状態にあり、これは③本も同じなのであるが、④⑤⑥⑦本によると正確に「さかい」とあるものなど。

(12) 『新木賊』『かざし草』での字数等は、すべて注(1)に掲げた山田氏の御論考のうち、「近世常用の漢字——雑俳『新木賊』の用字について」『成城文藝』第一〇五号、「近世常用の漢字——『冠附かざし草』の用字——」『成城國文学論集』第十六輯)による。

〔付記〕

本報告をなすにあたり、貴重な資料の借覧を心よくお許し下さり、さらにまた多くの御教示を下さいました山田俊雄先生に厚くお礼申し上げます。また、資料複写を心よくお許し下さいました諸図書館に対して厚くお礼申し上げます。

『青木賊』漢字索引

わ……	ら……	や……	ま……	は……	な……	た……	さ……	か……	あ……
122	120	119	118	113	111	106	95	86	84
その他……	り……		み……	ひ……	に……	ち……	し……	き……	い……
122	121		118	114	111	107	96	88	84
	る……	ゆ……	む……	ふ……		つ……	す……	く……	う……
	122	119	118	115		109	103	90	84
	れ……		め……	へ……	ね……	て……	せ……	け……	え……
	122		118	116	112	109	103	91	85
(IIは熟字訓を示す)	ろ……	よ……	も……	ほ……	の……	と……	そ……	こ……	お……
	122	120	119	117	112	110	105	92	85

西 讓 二 編

[illegible]

エツ

八良兵 96ワ10
万兵 25ワ10
悪七兵 27

衛

法師 34ワ7
燈籠 10オ5

影

お 15オ4
法師 34ワ7
燈籠 10オ5

栄

五郎 16オ1

永

イ 33オ6

エ

方 27オ5

恵

智 10オ5
智 47ワ10
智 16オ8
智 47ワ10

運

ばす 43オ8

ウ

のま 84オ6
馬 96オ1

有

白 18ワ7

春

座敷 82ワ9

越

見す 18ワ7

エン

ひより 40オ10

愛

煙 44オ10

奥

わけて 25ワ7
入 80ワ3

押

ぬ 44オ1
た 40オ3
て 90オ6
たり

往

天 99オ10

王

手 90オ5

鴛

江 93ワ8
江 93ワ8
江 93ワ8

遠

路 97ワ3
慮 97ワ5

椽

廻り 93オ7

塩

茶 87ワ7
茶 33ワ2
小 100ワ8

塩

茶 87ワ7
茶 33ワ2
小 100ワ8

煙

煙 44オ10

愛

煙 44オ10

エン

ひより 40オ10

越

見す 18ワ7

白

座敷 82ワ9

有

座敷 82ワ9

恩

御 10ワ8

思

かへし 42オ10

音

足 29ワ6
しめ 11オ9

オン

足 29ワ6
しめ 11オ9

虎

伊織 22オ10

帆

帆 96オ8

新

新聞 85ワ3

花

花 47オ4

百

百 37ワ3

染

染もの 33ワ9

寺

寺 21オ4

合

合 32オ5

風

風 12ワ3

小

小 11オ8

大

大 37ワ3

[illegible]

[illegible]

[illegible]

兄 あに 98 1 23 7 26 7
 嫁 あに 94 2
 叶 かふふ 35 5 83 4
 共 しと かり子 45 3
 供 クー 15 5
 とも 10 8
 子 99 3
 姜 1 7 8
 胸 むね 30 5 32 2 41 8 42 9 82 5 82 6 83 5
 脇 わき 1 99 2
 郷 1 39 4
 古 29 4
 蕎 29 5
 橋 はし 32 4 35 8 39 1 57 2
 はし 45 9
 一ばし 茂左衛門 47 7 先吉 86 4 大江 16
 鏡 1 43 1
 ギヨウ 居 43 1
 形 かた 1 86 2
 1 12 2 爪 47 6
 智 8 6 釣瓶 10 9
 業 1 49 9

キヨク 仕 7 9 針仕 27 4 深夜 22 4
 曲 16 6 99 8
 局 つばね 16 6 99 8
 極 16 6 99 8
 玉 1 8 7
 ギヨク 1 8 7
 子 31 10 31 4
 眼 27 3
 巾 1 23 6 48 2 89 9
 手 紙 11 3
 近 1 25 4 92 4
 金 1 12 9 33 7
 山寺 味 94 6
 万 丹 44 9
 算 43 4
 鈴 1 96 10
 琴 1 92 5 94 10
 筋 1 13 3 100 7

勤 つとめ 1 10 8
 通 22 2
 ギン 1 34 7
 銀 1 36 9 91 6
 下 1 10 9
 句 35 10 48 8 64 9
 苦 40 3
 駒 1 11 9
 具 1 42 7 10 2
 愚 42 7 10 2
 クウ 1 47 8 83 5
 空 47 8 83 5
 グウ 1 83 7
 隅 1 83 7
 クツ 1 83 7
 屈 1 83 7
 一ト理 34 2

[illegible]

[illegible]

さいひ 83オ1
 庚 83オ1
 紅 83オ1
 厚 あつし 83オ1
 香 あつし 83オ1
 荒 83オ1
 皇 83オ1
 候 83オ1
 祈 83オ1
 降 83オ1
 高 83オ1
 たい 83オ1
 たか 83オ1
 胸 83オ1

溝 83オ1
 構 83オ1
 廣 83オ1
 講 83オ1
 嘆 83オ1
 号 83オ1
 剛 83オ1
 喘 83オ1
 咳 83オ1
 告 83オ1
 刻 83オ1
 國 83オ1
 黒 83オ1
 コツ 83オ1
 乞 83オ1
 食 83オ1

骨 83オ1
 惚 83オ1
 今 83オ1
 コン 83オ1
 根 83オ1
 恨 83オ1
 根 83オ1
 貢 83オ1
 紺 83オ1
 言 83オ1

杉 しの 41ウ5 石 81ウ6 中 95ウ1
 産 へ 93ウ2
 うむ 15ウ4
 うみ 82ウ7 27ウ4 33ウ3 89ウ4
 うまれ 1月 87ウ2
 土 34ウ8 23ウ5 69ウ1 土 80ウ8
 参 爲 候 90ウ3
 傘 夕 時 91ウ10 百 度 10ウ8
 棧 敷 12ウ2 敷 42ウ4 43ウ10
 箒 下 敷 4
 箒 胸 ナ 用 35ウ7
 箒 へ 35ウ7
 箒 46ウ8
 箒 10ウ8
 箒 28ウ4
 士 おもしろい 同 17ウ2 頭 取 同 26ウ2 従 弟
 シ 同 29ウ9 惚 た 同 40ウ9 上 手 同 43ウ5
 男 同 45ウ8 隣 同 51ウ4 若 い 同
 95ウ7 中 の よい 同 97ウ1 娘 同 49ウ10 女

仕 色 事 94ウ9
 同 85ウ9 や め 同 10ウ4 替 同 36ウ4
 武 30ウ3
 衛 37ウ5
 馬 10ウ4 馬 18ウ4
 拍 8ウ4 弟 32ウ8 47ウ6 葉 37ウ7
 7 お 葉 93ウ10 頼 母 47ウ4 銚 13ウ9
 15ウ9 綿 帽 40ウ4 格 40ウ2 44ウ8 48ウ2
 黒 格 89ウ5 扱 86ウ5 葉 87ウ10
 拍 しの 同 1
 障 46ウ8 障 88ウ3
 34ウ8 81ウ2 89ウ2 8ウ3 9ウ8 9ウ2 14
 10 25ウ10 29ウ4 33ウ10 39ウ9 41ウ7 42ウ5 46ウ6
 82ウ9 86ウ6 100ウ2 100ウ5 お 8ウ8
 こ 供 99ウ3
 男 の 16ウ2 葉 30ウ4 37ウ7 44ウ1 葉
 入 レ 47ウ2 借 り 48ウ7 かり
 96ウ8 かり 共 45ウ3 紙 90ウ8 教 の 子
 17ウ4
 85ウ6
 迷 87ウ6 双 93ウ3 玉 31ウ10 31ウ4
 息 子 29ウ8 32ウ8 38ウ4 87ウ9 神 36ウ4 銀
 18ウ6 37ウ5 41ウ3 82ウ3 99ウ7 同 4 同 2
 銀 目 37ウ4 敷 銀 22ウ4 88ウ6 露 銀 31
 9 扇 箱 32ウ1
 色 事 94ウ9

市 44ウ2 46ウ2
 矢 行 95ウ2 行 39ウ5 年 行 45ウ5
 司 41ウ3 100ウ2
 此 10ウ2
 次 第 26ウ2 85ウ10
 路 100ウ7
 つ 11ウ8
 つ 一の 間 8
 糸 93ウ3 99ウ9
 芝 居 29ウ2 居 11ウ6 55ウ2
 旨 宗 14ウ5
 して 14ウ4 28ウ7 86ウ7 26ウ6 15
 5 35ウ3 28ウ8 46ウ2 47ウ4 80ウ4 83ウ6 100ウ2
 する 19ウ7
 して と ら れ 14ウ3 舞 35ウ8 廻 7
 6 廻 た 83ウ1 廻 た 10ウ7 立 7
 10 切 30ウ10 廻 38ウ2 廻 41
 48ウ9 業 7ウ9 合 15ウ9
 4 立 96ウ9 お 合 15ウ9
 針 業 27ウ4 身 舞 家 86ウ5
 1枚 肩 12ウ10 本 の 手 24ウ4 國 38ウ8
 1 ツ 晴 86ウ9
 夜 48ウ9
 今 97ウ3

[illegible]

[illegible]

宗	シムウー	薬	88ウ7
秋	シユウー	旨	14オ5
修	シニユー	千一樂	20ウ5
袖	そで	道町	42ウ2
そで		白小	13ウ7
習	ならふ	見	90オ10
集	シシュ	大群	26オ2
萩	はぎ	若	10オ8
衆	シシユウ	松頭	19オ9
摺	すれ	合ふ	30オ6
ジユウ			
十シフ		五六	8ウ8
シフ		一分	37ウ10
シフ		三一日	7オ6
六	38オ10		
大	二八日		27ウ10
汁	しる	十三	29ウ8
戎	えびす	初	30ウ9
住	ずむ	サミ	39オ8
すみ		半	98オ5
獨り	ひとり	み	39オ8
二銅			36

一判 34ウ10
 提灯 83ウ8
 普請 一家 45ウ10
 野川 26ウ5
 一と 19ウ1
 匠 師 44ウ6
 鷹 105ウ9
 床 19ウ6
 一と 12ウ5
 一と 23ウ6
 一と 93ウ5
 落し 99ウ8
 不 24ウ10
 妾 9ウ8
 14ウ7
 18ウ7
 23ウ3
 23ウ6
 99ウ6
 11ウ5
 39ウ4
 91ウ4
 105ウ3
 105ウ3
 てか 105ウ3
 もの 105ウ3
 松 まつ 25ウ7
 近 12ウ9
 千 105ウ10
 和 85ウ3
 咲 さく 84ウ1
 背 よひ 10ウ5
 39ウ6
 24ウ6
 消 けす 40ウ2

笑 わらふ 30ウ7
 一はして 83ウ8
 一て 97ウ7
 一ふ 11ウ3
 16ウ2
 一ひかけ 67ウ4
 顔 36ウ3
 98ウ3
 一し守 46ウ3
 商 あきなり 49ウ5
 負附 7ウ7
 一負 32ウ8
 一ツに 36ウ5
 一ツた 15ウ10
 一て 96ウ2
 一ツ 38ウ9
 一練手 10ウ8
 一く 94ウ5
 一糸 30ウ8
 狂 10ウ8
 隼 こける 94ウ5
 粧 49ウ7
 照 94ウ9
 蛸 たこ 45ウ4
 障 子 88ウ5
 雨 子 46ウ8
 裳 105ウ6
 立 20ウ2
 衝つ 20ウ2
 焼 やき 37ウ9
 濱 41ウ8
 一はこり 41ウ8
 一文 105ウ7

シヨウ
 内 14ウ6
 37ウ1
 80ウ6
 上 シヤウ
 一手 97ウ6
 99ウ3
 一手 91ウ9
 一手もの 21ウ7
 一者 98ウ10
 一細工 38ウ9
 一戸 40ウ9
 根 96ウ9
 一古 98ウ1
 一氣 10ウ8
 一座 10ウ8
 一手同土 43ウ5
 一問 18ウ8
 一手 32ウ
 一ハ 44ウ10
 41ウ7
 一エ 15ウ7
 一エ 12ウ9
 35
 一塗 91ウ4
 一店 48ウ2
 一リ口 20ウ2
 病み 35ウ1
 一た 37ウ16
 一ケ 86ウ10
 一る 10ウ3
 一る 10ウ3
 一キヨ 49ウ4
 油 93ウ7
 一ケ 105ウ8
 一ケ 37ウ5
 一ケ 82ウ3
 退 12ウ4
 95ウ5
 去り 40ウ5
 去 10ウ9
 白 88ウ9
 相場 105ウ8
 一らぬ 34ウ1
 一る 93ウ8
 一せた 29ウ5
 一 35ウ10
 城 一セ 22ウ6

102

ジン
 人—シン 旅—17オ3 名人—34オ3 結構—47ウ9
 —エン— 百—一首 30ウ8 女—堂—82ウ4 他—あしら
 い 19オ5
 —エン— 下—14オ5 貧乏—15ウ4 あいさつ—44ウ8
 貧乏—80ウ9 挨拶—89オ4 非—88ウ9
 ひと 10ウ8 13ウ8 14オ5 15ウ5 17ウ9 26オ9 40オ4
 44オ6 84オ6 87ウ4 89ウ4 90ウ7 90ウ7 贈—6
 ひと— づかい—85オ8 —だへ—90ウ5 —出入り—99ウ4
 花盗—31ウ6
 一びと 違ひ—19オ3 告—20オ3 物—22ウ4 阿—
 一て 42ウ9
 仲—9オ9 90ウ3 仲—14オ3 相場仲—12ウ10
 仲—10ウ9 素—32ウ3 88オ10 黒—89オ9 狩—
 89ウ4 志—24ウ8 志—39オ1 45オ9 97
 オ5 式—りながら 38ウ3 式—り 82ウ2 お
 二—り 86ウ3 か—り—96ウ4
 親—分— 19ウ3 演親—26オ10
 壬— 生—35ウ9
 盡—つる —ての—29ウ2
 儘—まよ 着の—15オ3
 スイ —よ 85オ5
 水— 入—33ウ4
 スイ— 牛—48ウ4

みづ 20ウ9 25ウ9 38ウ6 47ウ2 49オ4 61オ4 101
 吹 ふく 21ウ5 鶏—25ウ6 25ウ6 25ウ6
 ふき 24ウ9 1けす 93オ7
 厭—24ウ9 1て 97オ3
 垂 たれる 1はさ—toや 46オ5 1ふ 39オ3
 酔 ふふ 二日—ひ 12ウ9
 途 とける 1し 80オ9
 粹 スイ 11ウ9 29ウ2 35オ9 48オ2 90ウ2 88オ8
 スイ— 同— 36オ4
 誰 たれ 24ウ6
 誰 たれ 24ウ6
 アレ 33オ3
 26オ2 64ウ3 86ウ7
 誰 26オ2 64ウ3 86ウ7
 スウ 千綾— 47オ6
 珠—や町 38オ2
 物— 15ウ6 88オ8
 31ウ10

施—せ 布—15オ2
 是—これ 83ウ6 82オ5 82オ10
 セイ 戸場—46ウ7 1手の虫—21ウ7
 井— 鳥—13ウ10 14ウ2
 生 シヤウ— 1姜酒—7オ8
 疵— 90ウ4 身— 7
 いける 1て 90オ9
 花— 38ウ6
 1れて 42ウ10
 うまれる 王— 35ウ9
 正 シヤウ— 1の物—37オ10
 世— 1界—26ウ9 1話—30ウ3 1話—8オ5
 新— 8ウ3
 二— 20オ5 顔見—34ウ6
 187ウ9
 浮— 23オ9
 成— 道—24オ3
 1リ 36オ4 1り 44オ6 81ウ5 1て 9オ10 86オ
 1 86オ2 1た 21ウ5 1つ 29ウ4
 1 40ウ8 1たる 16オ3 1たる 31ウ10
 1 9オ9 9ウ9 1る 17ウ2 22ウ8 20オ9 21オ7
 33オ6 44オ9 85ウ9 89オ10 90オ4 15オ2 1ル 48

[illegible]

[illegible]

105

[illegible]

ダイ

大ダイ

一切な 46ウ4
力 80オ2
根 9オ6
根 10
根 17オ7
事 17オ7
工 84ウ3
黒屋 36オ7
船 93

船 42ウ8
股 8ウ2
みなと 13ウ7
笠瀬 13ウ9
群集 26オ2
三十日 27ウ10
三十日 84オ
坂もの 91ウ7
江橋 15ウ3
入 15ウ4
普請 41オ2
キなる 88ウ5

おはし
代ダイ
名 19オ2
名 94オ8
かほり
り 19オ7
次 26オ2
85オ10
臺ダイ
所 24ウ6
84ウ10
所 84オ4
箱 93オ8
嶋 18ウ7
仙 97オ9
外 附 25ウ8

題ダイ
外 附 25ウ8
棒 44オ2
詫 41オ8
達 伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

伊 80オ2
男伊 64オ9

燧

燧

巨 39オ3
39オ9
83オ2
90ウ3
93ウ2

丹 44オ9
伊 25オ9
那 13ウ6
那 36オ9
那さん 17ウ4

旦 13ウ6
那 36オ9
那さん 17ウ4

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

炭 13ウ9
47ウ8
路 28ウ10
路 43オ6

談

談

合 14オ2
相 14オ8
55ウ5
り 26オ8
27オ4

断 27オ4

灘 27オ4

地 27オ4

池 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

知 27オ4

馳

馳

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

馳 27オ4

つ	絶香 ^{ぜつこう}	48オ10
大煙 ^{だいてん}	15ウ5	
所 ^{ところ}	34オ8	
座帳 ^{ざちやう}	41オ8	
當 ^{あて}	クワ	
あてる	1る	20ウ8
あて	1	かへす 10オ6
あて	いひて	10オ1
あて	85ウ1	86ウ7
あて	心 ^{こころ}	28オ5
いな	材 ^{そく}	82ウ2
しま	淡路島 ^{たんろじま}	43オ6
しよ	座 ^ざ	31オ9
極 ^{ごく}	戸 ^と	10ウ3
ふみ	にじる	36ウ9
頭 ^{あたま}	取 ^{とり} 同士 ^{どうし}	26ウ2
トウ	座 ^ざ	13オ4
ウ	座 ^ざ	43ウ4
ウ	番 ^{ばん}	9オ10
ト	船 ^{ふね} 衆 ^{しゆ}	19オ9
トウ	船 ^{ふね}	87オ7
ウ	紅粉 ^{べんぷ} 中 ^{ちゆう}	27オ8
ア	寶 ^{たから} 一處 ^{いちぢよ}	91オ8
	扱 ^{はつか} 中 ^{ちゆう}	36オ5
	置 ^{おき} 中 ^{ちゆう}	41オ10
	座 ^ざ	

銀 96ウ6
 率 30オ2 80ウ7 92ウ7 率 持 49オ9
 行 10ウ8
 影 龍 14オ5
 柄 46ウ5
 藤 ふち
 ドウ
 同行 伴 87オ9
 おもしろい 士 17ウ2 頭取 士 26ウ2 従
 弟 士 29オ9 惚た 士 40ウ9 上手 士 43オ
 男 士 45オ8 隣 士 81オ4 若い
 士 95オ7 中のよい 士 97オ1 娘 士 49
 女 士 86オ9 やもめ 士 10ウ4
 緯 士 36オ4
 おなじ
 堂 グウ 99ウ10
 辻 40ウ9 女人 52ウ4
 中 17オ7 成寺 34オ3 修町 42ウ2
 責 具 10ウ2
 18オ4 19オ4 28オ2 34ウ3 49ウ10 83ウ2 85オ4 90
 6 95オ10
 野 9ウ7 近 33ウ7 梅田 35ウ4
 銅 12ウ36ウ4
 トク
 元 はげる 11ウ4

はげ 1
 あたま 99オ7
 禿 かもち 29ウ6
 得 トク 心 22ウ5 34オ6
 心 ぬ 81ウ1
 はづさぬ 43ウ8
 え 18ウ10
 徳 トク 蔵 97オ9
 獨 ひより 9ウ10 10オ5
 ひとり 住み 39オ8
 ドク 43オ2
 氣の 10オ2
 讀 よむ 33オ5 17ウ8 31オ2
 トツ 45オ10 1ウ30オ7
 突 つき 1もとす 24オ2 1のけて 34ウ2 1つけて
 35ウ5 1出した 83オ10
 36オ1 43オ5 99ウ3 100ウ9
 84オ5
 1八 10ウ10
 128オ6 30ウ7 93ウ5 96オ6 92オ10 1シ 93オ5
 1ばなし 87ウ10
 長 1シ 87ウ10

吞 のち 38ウ6 28オ1 1む 87ウ7
 のみ 32オ9
 ナ 13ウ6 10ウ6 1 17ウ4 36オ9
 那 ナ 13ウ6 10ウ6 1 17ウ4 36オ9
 ナイ 14オ6 37ウ1 80ウ6 義 17ウ6 義 28オ
 内 ナイ 6 37オ4 85ウ10 83ウ9 91オ3 100ウ7
 87オ6 100オ2
 ナ 17オ1
 ナン 美 87ウ10
 35ウ7 99オ2
 伊達 84オ9 1の子 16オ2 1同士 45オ8 105
 1をとこ 1をとこ
 1をとこ 30オ3
 1根 16ウ5
 無あみた 27ウ6 無あみだ仏 100オ6
 風 47オ7
 儀 31オ2 波新地 32ウ3 波 39オ1
 難 ナン 1世 29オ5 1番日 29オ8 1度日 36オ1
 本日 49ウ5 1八チ月 93ウ8 1リン飛 100
 1階 100ウ2 1階座敷 100ウ4
 銅 36ウ4

ふらつ 41才7 1ツ 81才2 1ツ 80才7
 ふた 親ながら 16才9
 日酔ひ 12才9 お一人り 85才3
 14才7 17才3 81才5 88才4
 尼 あま 番太鼓 10才10
 式 ニー 一人りながら 38才3 一人り 82才2
 ニク 一人り 10
 肉 しレ 10
 ニユウ 口 44才6
 入 ニウ 1ツて 47才4 1ル 28才5 85才4 1ル 49才9
 いる 86才6 1た 81才5
 いる 間 22才5
 いる 1りくんで 9才7 1りふね 13才7 1船 81
 1り 相 86才4
 1り 嫁 22才7 嫁 1り荷 31才8 嫁 1り荷 31
 10 水 1する 33才4 出 1かた 44才3
 七合 1り 13才9 戴 36才10 98才4 待 90才3
 嫁 93才9 人出 1り 99才4 大 1時 4 吸
 1り 91才8
 1レかねて 29才5 1て 86才5 1レた 92才6
 1れる 14才9 1る 15才7
 1れ子 47才2
 念 1て 36才6

女 ニヨ

1いれ たばこ 1レ 16才3 押 1レ 80才3
 1る 10才10 10才4
 しむ 1ム 13才5 1む 42才4
 しむ 咄し 10才10 1ンた 93才5
 梅 21才8 遣 1ル 38才2 宿 1り 48才8
 1豆 84才4
 1もらい 35才2
 添 27才2 添 63才6
 母 9才8 15才7 23才7 32才10 25才4 25才10 45才9
 母 96才3 96才6 98才2 1母 35才9 36才8 37才2
 母 90才6
 1房 8才6 9才8 19才7 26才7 32才10 32才2 33才2
 34才3 41才8 85才2 1房 81才3 87才7 103才2
 1房 83才8 1房 95才8
 1老 1房 30才3
 1人堂 82才4
 1中 18才8
 1姉 1郎 12才7
 1下 23才10 26才8 83才4 95才5 96才6 下 91才6
 1下 42才6 美 57才10
 14才4
 1らしは 13才2 1同士 86才9
 1夫 8才3 14才6 90才5 1夫 94才4 97才5

ニ 替 94才3 隠 97才10
 任 まかす 1す 26才2
 刀 まかせる 1せの 31才8
 出 35才8
 ネ 1宜 45才2
 年 1行司 46才5
 1寄客 10才5
 1比な 45才8
 1佛 8才9
 1燃 82才6
 ノウ 1林木 1屋 48才5
 能 1結 23才2
 1 31才10
 1 80才4
 1工合 20才7
 1男 35才7
 1イ月夜 29才1
 1女房 34才3

[illegible]

[illegible]

115

[illegible]

苞	つと	82ウ3
法	ホフ	影法師 34オ7
放	ホツ	華 14ウ10
	はなす	す 10オ8
	はなれる	て 23ウ5
奉	ホウ	公 40オ3
峯	みね	46ウ2
逢	あふ	た 47オ4
訪	とふ	ふ 25オ2
傍	そば	92オ9
報	ハウ	謝日 45ウ6
棚	たな	86オ8
幘	て	蚊 43ウ8
豊	て	鳴 15ウ8
綻	ぬふ	ふ 16オ7
	ぬい	もの 18ウ9
寶	ホウ	三寶 17ウ10
	たから	寶 37オ3
乏	ホウ	貧一人 15ウ4
坊	ハフ	貧一人 80ウ9
	ハウ	禪主 10ウ9
	ハウ	武藏 97ウ4
	ハウ	禪主 15ウ8
	ハウ	貧一町 46ウ9
	ハウ	貧一じやく 89

命 ^{いのち} ー 9ウ6
迷 ^{まい} ー 子 87ウ6
鳴 ^{なる} ー 16ウ8 ー 80ウ4
メン
面 ^{めん} ー 素 89ウ7
綿 ^{めん} ー 木 27ウ8 木 店 94ウ8
わた ー 21ウ6
わた ー ほうし 19ウ2 17ウ6 ー 帽子 40ウ4
わた ー 早 28ウ6
茂 ^も ー 左衛門橋 47ウ7
ー 加 30ウ3
モウ ^{しげる} ー 46ウ2
毛 ^{モウ} ー 12ウ2
け ー 虫 49ウ6 10ウ9
盲 ^{めくら} ー 文 7ウ5
網 ^{あみ} ー 44ウ2 89ウ3
モク
目 ^め ー 35ウ5 10ウ10 10ウ4 ー 35ウ5
め ー あて 44ウ2 ー お 出 たい 24ウ5
ー 三 段 18ウ9 二 番 29ウ8 銀 子 37ウ4 二
度 38ウ1 二 本 49ウ5
モン

門 ^{もん} ー 徒 18ウ6
ー モン ー 茂 左 衛 門 橋 47ウ7
かど ー 82ウ6 ー 1ト 95ウ6
かど ー 口 10ウ10 ー 送り 10ウ5
紋 ^{もん} ー 日 43ウ10 ー 日 前 9ウ5 ー ざ わ 10ウ6
ー モン ー 小 帳 30ウ6
問 ^{もん} ー 合 45ウ10
とふ ー ぶ て 17ウ2 ー ひ に 45ウ3 ー ぶ 49ウ10 95ウ8
とひ ー ヤ 49ウ5
とひ ー ひ 上手 18ウ8 ー ひ 落 す 99ウ3
新 ^{しん} ー 屋 85ウ3
根 ^{こん} ー 34ウ6
聞 ^{きく} ー 1た 36ウ4 47ウ3 56ウ6 25ウ8 32ウ10 42ウ8
96ウ4 ー 1く 21ウ3 26ウ7
きき ー 所 46ウ4 ー 入 る 84ウ10 ー づ ら い 92ウ1
也 ^{なり} ー 82ウ8 ー 9ウ6 10ウ8 13ウ1 13ウ10 19ウ3 19
オ 8 19ウ8 21ウ4 25ウ6 26ウ2 28ウ7 33ウ2 40ウ6
43ウ3 44ウ5 68ウ10 97ウ6 10ウ9 10ウ10
治 ^ち ー 鍛 10ウ10 鍛 10ウ10 鍛 10ウ10 鍛 10ウ10
夜 ^や ー 番 36ウ9
今 ー 96ウ10
よ ー 12ウ6 23ウ9 39ウ7 12ウ8 33ウ8
ー 着 7ウ8 ー 市 48ウ9 ー 店 10ウ6
ユウ
又 ^{また} ー 16ウ4 10ウ3 7ウ3 14ウ6 14ウ3 25ウ5 32

野 ^の ー 道 9ウ7 ー 等 19ウ10 40ウ7 49ウ6 57ウ8
13ウ3 ー 3ウ3
菊 ^{きく} ー 9ウ9
吉 ^{きち} ー 川 20ウ9 吉 川 89ウ3 小 川 26ウ5 49
爺 ^や ー 42ウ2
ヤク
役 ^{やく} ー 10ウ5
ヤク ー 割 35ウ9 ー 着 附 88ウ3
敵 ^{てき} ー 36ウ2 ー 操 除 10ウ3
訳 ^{わけ} ー 37ウ7
薬 ^{くすり} ー 鍋 12ウ4
合 ー 屋 22ウ8
ま ー 37ウ10
ユ
由 ^ユ ー 不 自 由 33ウ8
油 ^{あぶら} ー 31ウ7 ー 5ウ9
あぶら ー 手 83ウ6 ー 上 け 93ウ7
又 ^{また} ー 16ウ4 10ウ3 7ウ3 14ウ6 14ウ3 25ウ5 32

[illegible]

[illegible]

[illegible]

